

令和元年 10 月 4 日

議会議長 中 野 博 様

文教厚生委員長 長 澤 務

文教厚生委員会の管外行政視察について（報告）

令和元年 6 月 21 日にご承認いただいた文教厚生委員会の管外行政視察を実施いたしましたので、その結果を次のとおり報告いたします。

記

- 1 実施日 令和元年 8 月 1 日（木）から令和元年 8 月 2 日（金）
- 2 参加者 文教厚生委員 8 名  
議会事務局職員 1 名
- 3 視察場所 埼玉県飯能市  
神奈川県鎌倉市
- 4 視察概要 別紙のとおり

## 文教厚生委員会管外行政視察報告書

### 埼玉県飯能市（小規模特認校制度について）

飯能市は、都心に近い立地ながら緑と清流の豊かな自然に恵まれており、約200平方キロメートルの市域のうち7割以上が森林である。

市では、山間地域の児童・生徒数が減っている小中学校を小規模校と位置付け、適正化と活性化のために小規模校特認校制度を導入している。これは、学区外に住む小規模校への入学を希望する児童・生徒に対し、市が認めた場合に就学を許可するものである。

小規模校では、特色ある教育活動を行うことで児童・生徒のやりがいにつながり、地元の児童・生徒は別の地域から児童・生徒が通学することで固定化された人間関係が緩和されるなど、様々な成果がある。一方で、通学費補助に係る予算の増加や、特別な支援や配慮を要する希望者の増加など、課題も多く生まれている。

本年度からは新たに、小・中一貫校の小規模校を設立しており、1人1台のタブレットを配付し、「21世紀型の教育」を行っている。これからの成果が非常に楽しみな事例であった。

当町においても、小中学校の児童・生徒数の減少が予想されるなか、小規模特認校制度の導入やその後の事例など、今回の視察で話を伺えたことは、今後の町の小中学校のありかたを考えるうえで、大いに参考になった。

### 神奈川県鎌倉市（ごみ処理の有料化について）

鎌倉市は人口密集地域であり、埋立地の不足などから平成9年にごみ半減都市宣言を行い、平成27年度からは家庭ごみ発生の抑制を目的にごみ処理の有料化を行っている。40リットルの袋を1枚あたり80円で販売するなど、ごみ袋を有料で販売することにより、ごみの分別やリサイクルに対する市民の意識を高め、売上収入の一部を処理場の改修基金等として積み立てられるため、施策の内容が明確である。しかしながら、有料化により市民の負担や行政の業務量が増加する面もあり、有料化を実施するには官民が一体となり取り組む必要がある。

その他にも、全国上位のリサイクル率で毎年推移する資源ごみのリサイクルや、福祉サービスも交えた声かけふれあい収集など、市全体でごみの諸問題に対して取り組む姿勢が見られた。

当町においては、ごみ処理に対して様々な課題はあるが、現在は分別などをあまり意識せずごみを捨てることができる環境にあるため、削減に向けた具体的な施策を進めるのは容易ではないと感じた。今回の視察の内容は、ごみに関する諸問題の解決に向けて、参考にできる点が多くあった。